

# 株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



1 第369号

日経平均株価

3万3431円51銭

▼55円38銭(前日比)

TOPIX

2382.52

▲7.59(前日比)

2023

12/4

月曜日



年末恒例のIPOラッシュがスタート

粒は大きいが、今年もIPOラッシュがスタートする。今年もIPOラッシュがスタートする。今年もIPOラッシュがスタートする。

今年もIPOラッシュがスタートする。今年もIPOラッシュがスタートする。今年もIPOラッシュがスタートする。

去に、日本郵政(6178)とかんぽ生

命保険(7181)、ゆうちょ銀行(7182)の郵政グループ3社、ソフトバンク(9434)など大型上場が行われたケースが多く、これが他のIPOを圧迫していたケースがあつたが、今年も大型IPOのラッシュがスタートする。

高初値となる可能性も秘めている。しかも、大型級でも今年9月21日にプラ

## 初値形成後一段の上昇も

時流に乗る業態なら

12月は4日のアスマーク(4197)を皮切りに15銘柄の新規上場(IPO)が控えており、年末恒例のIPOラッシュがスタートする。10月24日に618.70ポイントの安値を付けていたグロース250指数は直近で716ポイントまで回復、低迷を続けていた小型株にも資金が向かつており、直近公開銘柄で急伸する銘柄も目撃される。このような中で将来性が高いIPOのセカンダリーも狙い目がある。個別で注目銘柄をピックアップした。

## 年末恒例IPOラッシュ

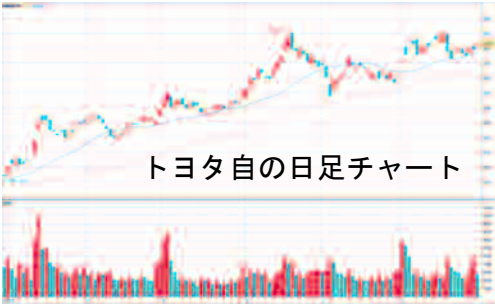
## 宇宙ビジネスや地方創生に注目

上場の雨風太陽(5616)、19日上場のエスネットワークス(5867)あたり。QPS研究所は小型SAR衛星の開発や小型SAR衛星より取得した画像データの販売を手がける宇宙ビジネス企

業。雨風太陽はCt o プラットフォーム「ポケットマルシェ」を運営し、自治体向け支援サービスなどを行う地方創生とも言える異色のビジネスを手がける。高初値は期待できないものの、関西圏では地名度が高いラメンチェーンを展開する魅力屋(5891)は先行き、優待が実施されれば、長期投資の個人から人気を集めるかも知れない。

日経平均の日足チャート





トヨタ自の日足チャート

# 自動車株売られる

## 1ドル148円台への円高重石

週明け20日、トヨタ自動車(7203)やマツダ(7266)1)、ホンダ(7267)、日産自動車(7201)などの自動車株が軒並み売られた。1ドル148円台へと急速に円高が進んだことから輸出関連の代表格である自動車メーカーには

利益悪化懸念から売りが嵩んだ。日経平均が高値を付ける過程でけん引役の一角を担っていたことから利益確定売りも出ていた。

### 東海上増額と自社株買い

東京海上ホールディングス(8766)が大幅続伸。同社は17日の取引終了後、24年3月期の業績予想の修正を発表、

連結経常利益で7500億円から7650億円(前期比54.8%増)へ上方修正した。同時に自己株式取得枠の設定を発表、上限4000万株(発行済株式総数に対する割合2.0%)または700億円(取得期間は11月20日〜24年5月15日)の機動的な資本政策を遂行するため。

## 11月第4週の動意銘柄

### ペルセウス早期認可期待

ペルセウスプロテオミクス(4882)がストップ高で相場来高値更新。開発中のPPMX-T003のアグレッシブNK細胞白血病(ANKL)の医師主導治験について新たにNK患者2名への投与完了が公表されたことで早期の認可期待が引き続き高まっている。

## T&SはJAXA技術提供

21日、ティアンドエス(4055)がストップ高まで買われた。20日、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)向けに、同社の持つAI関連技術を利用したソリューションを提供すると発表したことが買い手掛かり。詳細は非開示だが、業績への影響は来期予想に織り込むと

### アルメディオ希薄化懸念

アルメディオ(7859)がストップ安。20日取引終了後、マイルストーン・キャピタル・マネジメントへの第三者割当により、第9回新株予約権と第10回新株予約権を発行すると発表、一株当たり利益の希薄化懸念が台頭し

### GENDA上方修正

GENDA(9166)がストップ高まで買われた。同社は20日の取引終了後、24年1月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で475億円から530億円(前期比15.0%増)へ、営業利益で43億円から50億円(同17.8%増)へ上方修正した。商戦期である8月の既存店売上高がコ

## 正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は高値警戒感から上値が重く、5週ぶりに反落しました。日経平均は前の週から194円下落しています。米長期金利は低下基調を強めたものの、円高が進行したことで上値を追うことができませんでした。週明け27日から3日続落、30日は売り先行のあと切り返しが、週末はNYダウが大幅高で年初来高値を更新した流れに逆買い先行のあと下がります。ただ、3万3100円に接近した場面では買いがさ意識されました。週末に米11月雇用統計、翌週にはFOMCを控え、週明けは様子見ムードが強まりそうです。ただ、前週は海外投資家が現物、先物が替が落ち着けば週末のメジャーSQに向けヘッジ買いを誘発する可能性があり、半導体関連をけん引役に上値追いを期待しています。

### 為替落着けば上値追い



花咲翁

ロナ禍前の2019年同月を上回る水準と順調に推移し、9月も同様に2019年同月を上回る水準となり、M&A案件も考慮している。

### 小売り株輸入コスト低下

ニトリホールディングス(9843)、

ワークマン(7564)、神戸物産(3038)など輸入品を取り扱う小売り株が買われた。この日、為替が一時、1ドル147円23銭まで円高が進んだことで輸入コスト低下による収益上振れ期待が高まった。

# バードマン連続S高

## K-POPイベント共催材料視

22日、Birdman(7063)が連日のストツプ高。



テクニスコ売られ過ぎ

テクニスコ(2962)がストツプ高まで買われた。同株は7月26日に東証スタンダード市場に新規上場、公開価格560円を63.2%上回る914円で初値が生まれ、その後は11月17日に555円の安値を付けていたが、売ら

れ過ぎとの見方が広がった。精密加工部品事業(ヒートシंक製品とガラス製品などの製造・販売)を行う。

公開価格73%上回る

### バリュウCCの初値

バリュウクリエーション(9238)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1790円を72.6%上回る3090円で初値が生まれた。マーケティングDX事業、不動産DX事業(住宅解体のマッチングプラットフォームの運営)を行う。

## 提携と不二家不ブクショク

週末24日、ショクブン(9969)がストツプ高で年初来高値更新。不二家(2211)と冷凍自動販売機分野で業務提携することを発表したことを受け、業容と収益拡大が期待された。同社は

今期から冷凍食品の自販機設置に着手、飲料系ベンダーと連携して設置先を開拓しており、今回の提携では不二家が冷凍スイーツ自販機を中京、関西地域へ拡大する際に、同社が自販機の販売・補充・メンテナンスを行い、宅食事業では不二家の冷凍スイーツなどの取り扱いも開始する。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

# 松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0~1.8%

取引  
コスト

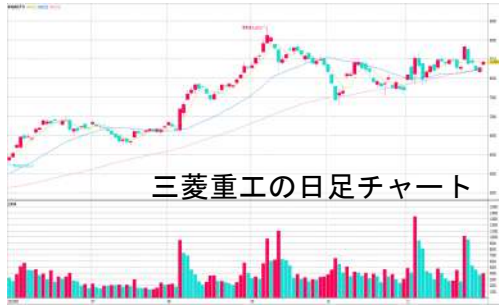
プレミアム  
空売り

独自  
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら  
marketpress.jpのバナーをクリック





三菱重工の日足チャート

# 三菱重工が大幅続伸 防衛事業売上規模1兆円へ倍増

の大幅な拡充により、過去20年あまり約5000億円で推移してきた事業規模が2倍以上になると想定。今後、設備増強や研究開発に積極的

24日、三菱重工(70)が11)が大幅続伸。防衛事業の売上高が27年3月期までに1兆円規模になると発表。政府による防衛力整備計画

に投資をする方針で、防衛関連分野拡大による成長性が改めて確認された。

## ファイナンシャル業績不安再燃

ファイナンシャル(5994)が急落。

24年3月期の第2四半期累計の連結決算は、営業利益で当初計画の1億5000万円に対して3900万円(前年同期6億7700万円の赤字)と下振れ着地しており、業績不安再燃による売りが出た。第1四半期まで残った半導体不足の

影響や中国とアジア子会社での売上減影響による利益減を単独の自動車などの利益増で吸収できていない。

## エンプラス急伸し最高値

エンプラス(6961)が急伸、最高値を更新した。24年3月期の第2四半期累計は減収減益で計画未達で着地したが、Digital Communication事業では前年同期比60・9%増と大幅に伸びていること改めて材料視

# 大正製薬HDはMBO

## 11月第5週の動意銘柄

週明け27日、大正製薬ホールディングス(4581)がストップ高。経営陣による自社株買収(MBO)を実施し、株式を非上場化すると発表した。創業家出身の上原茂副社長が代表を務める企業が、

11月27日(来年初)1月15日に、1株あたり8620円で株式公開買い付け(TOB)を行うことからTOB価格にサヤ寄せする動き。

ユークス大幅減額で赤字  
ユークス(433)

4)がストップ高。前週末取引終了後、24年1月期の連結業績予想について、売上高を79億2300万円から41億5300万円(前期比1・8%減)、最終損益を11億9200万円の赤字から14億2500万円の赤字(前期8300万円の黒)

字)へ大幅に下方修正したことが嫌気された。トレーディングカードゲーム「D Cデュアルフォーム」の売上高が計画を大きく下回り、開発費を減損処理することで最終赤字に陥る。収益悪化に伴い、年間配当金も42円から10円に引き下げた。

地盤ネットがストップ高  
地盤ネットホールディングス(6072)がストップ高。子会社の3Dスキャン撮影とBIMモデリングを活用した既存建物のデジタルツイン化技術が京都市で採用されたと発表。図面が無い既存建築物をデジタル化し、BIMモデリングまで作成することにより、維持管理や修繕・改修計画が仮想でシミュレーションできる。

## 株高期待の12月

先週の東京株式市場は5週ぶりに反落しましたが、上下幅は650円と値動きの乏しい一週間でした。米長期金利が急低下し、10年債利回りが26週線にタッチしてきましたが、その割にはナスダック市場が静かな取引だったことが影響したようで、日柄調整の一週間となりました。

ただ、11月相場は大きな月足陽線が立ちました。日経平均は前月比2628円高。上昇率は8.5%に達し、2015年10月以来、およそ8年ぶりの大きさとなりました。バブル後の33年間のデータでは、11月の勝敗は22勝11敗(勝率67%)と、年間で最も勝率が高い月という株高傾向が今年も当てはまりました。

11月に次いで勝率が高いのが12月の21勝12敗(同64%)です。NYダウが年初来高値を更新してきており、東京市場も追随して高値更新を期待したいものです。

日々勇太朗



## 転ばぬ先のテクニカル

さくらネットがS高

デジタル庁の事業に認定

28日、さくらインターネット(3778)が急伸、ストップ高まで買われた。IaaS型クラウドの「さくらクラウド」が2023年度にデジタル庁が募集した「ガバメントクラウド整備のためのクラウドサービス」に認定されと発表し、今回の選定により、デジタル庁が進

める「ガバメントク



クラウド整備事業に係る検証作業等」において「さくらのクラウド」が対象となる。グロースセルはTOB(株)がストッパ高。27日の取引終了後、マクニカホールディングス(3132)が同社株に対しTOB(株式公開買付)を実施すると発表、買付価格1株645円にサヤ寄せする動き。同社は「賛同」を表明し、TOB後に上場廃止となる。

グロースセル(9995)がストッパ高。27日の取引終了後、マクニカホールディングス(3132)が同社株に対しTOB(株式公開買付)を実施すると発表、買付価格1株645円にサヤ寄せする動き。同社は「賛同」を表明し、TOB後に上場廃止となる。

シャープ格下げ シャープ(6753)が急落。JPモルガン証券がレーティングを「Neutral」から「Underwrite」へ、目標株価を810円から800円へ引き上げたことを受けて悲観売りを浴びた。

西部技研ストッパ高 西部技研(6223)がストッパ高。27日の取引終了後、米国大手EV自動車メーカー向け低露点

対応型デシカント除湿機を受注したと発表した。受注金額は約20億円。ユニテック社とアライアンス、主力製品のスマートフォン装着型バーコードリーダー「AsReader」を米国の有力食品・飲料メーカーや販売店に2万台以上納入したと発表したことを受け、収益貢献が期待された。ヒューマンエラー削減や在庫管理のリードタイムが改善する。

サンリオ潜在的希薄化(8136)が大幅反落。TOBによる自社株買い付けとCB発行を発表した。TOBは28日終値と30日終値の低い方の株価から10%ディスカウントした価格で最大で発行済み株式の約2.5%にあたる218万株を買い付ける。CBによる潜在株の比率は4.8%で、潜在的な希薄化が大きく、売りが先行した。

企業観察

ハリマ化成G(4410)

収益再建が順調に進む

ハリマ化成グループ(4410)は収益再建が順調に進んでいる。24年3月期第2四半期は原材料価格高騰分の販売価格への転嫁が進み、営業赤字が前回予想の12億円から6億700万円へ半減した。さらに、はんだ材料や塗料樹脂の需要分野を拡大、売上を伸ばすことで一段の収益改善を図る。はんだ材料はハイスペックが求められる自動車分野の需要開拓が順調に進んでいる。高耐久鉛フリーソルダーペーストで室温でも長期保管できるソルダーペーストでカーボンニュートラルにも対応、売上上げを大きく伸ばしており、中

はんだ、塗料樹脂など需要分野拡大

国でも拡販に乗り出した。塗料用樹脂は回復する国内塗料需要に対応するため、茨城工場の設備増設に加え東京工場でも生産を開始した。これで基幹工場の加古川製造所の3工場を合わせた生産能力は約25%アップ、柔軟で効率的な供給体制も整え、植物由来の原料を使用したエコロジー製品として引き合いが強まっている。このほか、電子材料では半導体用機能性樹脂(フォトレジスト用樹脂)、印刷インキ用樹脂は水系樹脂など付加価値製品へシフトを進めており、市場ニーズに 대응する開発により需要を取り込んでいく。

そーせい増資とCB発行

29日、そーせいグループ(4565)が急反落。産業界革新投資機構傘下のファンドを割当先とする第三者割当増資と公募増資、CB発行を行うと発表し、潜在的稀薄化と需給圧迫が警戒された。第三者割当増資は686万株、公募増資は海外募集で150万株で発行株の10.1%にあたり、CBはユーロ円建て320億円で、潜在株比率は19.8%になる。調達資金は総額約417億円でCBの償還資金と戦略的成長投資などに充たす。

アスタリスク大型納入

アスタリスク(6522)がストッパ高。米国完全子会社

# 3万4000円に挑戦

日経平均は月末調整売りが終了し、12月相場が名実ともに始まりました。

先週は米国株が小動きでしたが、11月30日は520ドル高と大幅高で今年の8月高値を大きく更新し、3万5950ドルで終えました。米国の金利低下傾向が一層強まり、来年には利下げの可能性が一段と強くなることを好感して急伸びしました。米国連銀はインフレ懸念の薄まりを認めつつも金利引き下げには慎重な発言が目立っていました。

た動きが日経平均にも次第に反映されるか、米株はハレと見ています。米株はハイテク系の動きはそれほど強くなく、それを除く主力系銘柄が上昇をけん引しました。日経平均も11月の上昇は半導体系が中心でしたが、景気回復見通しが強まることを好感する展開になると考えると、むしろ、これまで低迷していた業種が12月には活躍するとみるのが自然ではないかと思えます。今後の相場は一段高になると予想して、恩恵を受ける大手証券株の野村ホールディングス(8604)を一貫してお勧めしていました。しかし、調整局面が続きました。30日に大きく下回りました。

## 高野恭壽の株式情報



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽(たかのやすひさ)氏が急伸びしました。

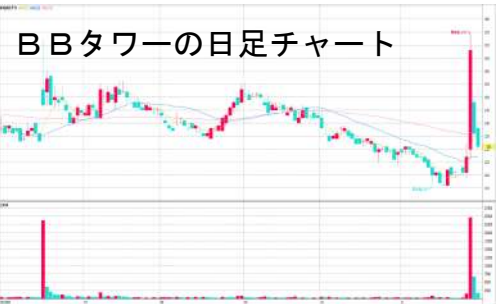
## これでどや!!

の上昇が強まる動きが金利の低下につながるとの見方になり、金利低下に対する強い期待から一気

## 低迷業種が活躍へ

3) 技術Vその他E  
2) 関連の西部  
2) 研(622)です。

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>



## BBタワー一気に高値

### データセンターで出遅れ修正

29日、ブロードバンドタワー(3776)が急伸、上昇率は32%を超え、一気に年初更新した。都市型データセンター運用に強みがあり、同じデータセンター関連ではガバメントクラウド整備に絡んでさくらインターネット(3778)が連日値を飛ばしていることから、

## 資生堂は連日の安値

160円台の時価に値ごろ感から個人資金が流入したようだ。

30日、資生堂(4911)が連日安値を更新。11月10日に24年3月期の業績予想を下方修正しており業績悪化不安の高まりから売りが売りを呼ぶ展開になっている。トラベルリテール事業、中国事業で規制強化、旅行者を中心としたビジネスモデルへの回帰・市場正常化の流れを受けた流通在庫調整のほか、ALPS処理水の海洋放出後の日本製品買い控えによる影響が出ている。中国の更なる景況感悪化からさらなる下ブレ懸念があるようだ。

## 伊藤園増額も織込み

伊藤園(2593)が大幅反落。24年4月期の業績予想について、通期の連結営業利益を210億円から232億円(前期比18.4%増)に上方修正した。ただ、人流増加やインバウンド回復などによる収益拡大は第1四半期の状況で観測されており、織り込み済みとして売りが優勢になった。併せて150万株を上限に設定したが反得枠を設定したが反応は限定的。

## ショーケースがS高

ショーケース(3909)がストップ高。さくらインターネット(3778)がデジタル庁のガバ

J  
P  
X

# 新NISAに向け環境構築 山道裕己CEO定例記者会見



取締役兼代表執行役グループCEO山道裕己氏

日本取引所グループ（8697）の取締役兼代表執行役グループCEO山道裕己氏による定例記者会見が11月28日に大阪取引所で行われた。

今年は指数先物取引が1988年から始まって35周年になる。この間に東京証券取引所と大阪取引所が統合され、指数先物取引が大阪取引所に集約されたが、今や世界的にみてもデリバティブ取引所としての地位が固まってきたと思う。今年は日経225マイクロなど新たな取引を開始したが今後も利便性の向上、国内外の投資家が求めるサービスをタイムリーかつスピーディーに提供することによって魅力を高めていきたい。

株式取引については2024年1月からスタートする新しいNISAに向けて新しい取り

組み行っている。昨年10月から上場企業に要請している投資単位引き下げに関しては株式分割によって既に70社程度が実施しているが、引き続き要請を行い若い投資家にも株式を購入し易い環境を作る。

投資経験の浅い投資家に向けて「価値創造が推定される我が国を代表する企業」で構成されるJPXプライム150指数を開発した。これに絡むETFや投資信託も登場してくると思う。アクティブETFを含めて個人投資家に対して魅力ある環境を構築していきたい。

年末年始恒例の2023年大納会・2024年大発会の概要も同時に発表された。今年度の大納会は12月29日15時から開催。東京会場に「2023WBC日本代表監督」の栗山英樹氏を迎え、大阪会場には市場関係者をはじめ関西経済界の関係各機関が来賓となり、今年IPOを行った関西圏の上場会社を招いて、一年を締めくくる。大発会は1月4日8時40分から行われる。

企業レター



アドテストの日足チャート

30日、アドバンテスト（6857）が急反発、半導体関連銘柄にあって目立った動きがなかった。29日に開催したモリテスタの技術説明会でAI関連向けHBM（High Bandwidth Memory）が今期は200億円の規模に拡大すると試算、今後2年程度は49%程度の成長が続くと見られる。先導体需要拡大に伴う

## アドテストが急反発

AI向けHBM成長期待高まる

週末1日、アドテスト（30）が急反発。11月30日の取引終了後、23年12月の業績予想について、連結売上高で192億3.8%（前期比）へ引き下げたものの、営業利益を21億500万円から22億7700万円へ修正、増配へ上方修正、期末当を10円から14円（前年同期比）へ引き上げた。IT投資について、企業のDX（デジタル）推進による業務プロセスやビジネスモデルの刷新が期待されている。

## ソリトン上方修正で増配

ソリトン（30）が急反発。11月30日の取引終了後、23年12月の業績予想について、連結売上高で192億3.8%（前期比）へ引き下げたものの、営業利益を21億500万円から22億7700万円へ修正、増配へ上方修正、期末当を10円から14円（前年同期比）へ引き上げた。IT投資について、企業のDX（デジタル）推進による業務プロセスやビジネスモデルの刷新が期待されている。

モデルの変革への取り組みが引き続き旺盛。

## アルデプロ特設注意指定

アルデプロ（8925）が急落。東証が11月30日付でアルデプロ株式を特設注意市場銘柄に指定したことが投げ売りを誘った。アルデプロは9月28日、不適切な会計処理に関する社外調査委員会の調査報告書を開示し、また、当該調査報告書を踏まえ、同月29日付で、過年度の決算内容の訂正を開示している。

## ワンダープラ高

ワンダープラネット（4199）がストップ高。23年8月期の有価証券報告書の売掛金欄でゲームフリーク社の記載が新たに表記されたことが材料視された。ゲームフリークはポケットの企業。

# チャートから読む 騰落銘柄

## トレンドマイクロ(4704)



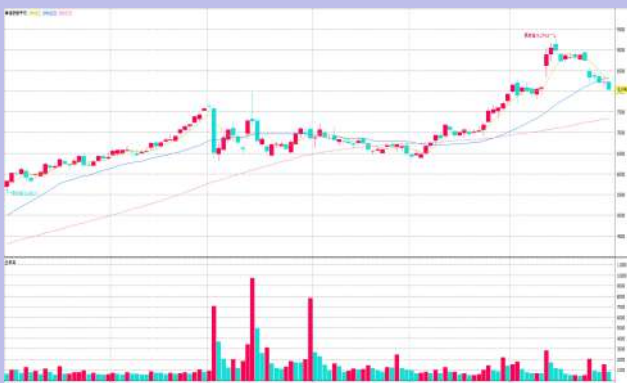
想定超の株主還元拡充方針が評価され、6連騰に6月19日高値を上抜き一気に7915円まで買われる。心理的なフシ目である8000円を抜ければ、22年8月に付けた上場来高値9150円が視野に入る。

## エンプラス(6961)



10月31日ザラ場安値7670円で当面の底値を確認、日足陽転のあと5日線を下値指示に鋭角的な上昇が続く。信用倍率0.31倍、貸借倍率0.02の好取組みも株価を押し上げ、青空相場を一段高へ。

## ゼンショーHD(7550)



11月15日に9274円の最高値更新後に利食いで8800円台での推移だったが、戻りは鈍く25日線割れから8000円トビ台まで売られる。75日線を意識するなら7400円近辺が意識される。

## ダイキン工業(6367)



戻り試すも75日線に跳ね返され、再び下値模索へ。中国市場低迷と欧州ヒートポンプの落ち込みによる収益下振れ懸念強い。10月安値2万1040円割り込めば、年初来安値1万9655円までの調整も。

※チャートは日足



# 星野三太郎の株街往来

～余裕を持った投資～

国内では第2四半期決算発表が一巡して海外でもエヌビディアの予想を上回る決算などが話題となった。一方で投資会社では米著名投資家ウォーレン・バフェット氏率いる米投資会社バークシャー・ハザウェイの7～9月期決算で株式売買が52億5300万ドルの売り越しだったことを気にする投資家

が少なからず存在した。バフェット氏と言えば商社株の買い増しで三菱商事などが急騰し、全般相場の底上げに貢献しているだけに、売り越しと聞くと暴落を察知して現金化に動いていると懸念する向きもあるだろう。しかし、数年前のコロナ暴落前には買い越していたそうなので、必ずしも暴落を予知して売買している訳ではないのだそうだ。実際のところは本人に聞くしかないが、一年を通じてこのタイミングというときに買いに動いているのではと指摘する向きもあるので、年がら年中、義務のごとく売買を繰り返して小幅な損を繰り返す筆者のような個人投資家とは考え方が全く異なるんだと思う。待つも投資。余裕を持った投資を心掛けたい。



## New product

### モロゾフ Xmas彩る贅沢なスイーツ

23～25日期間限定で発売



クリスマス ストロベリーショートケーキ

モロゾフ(2017)は人気のプリンを使用した「プリンパフェ」シリーズをはじめ、クリスマス限定スイーツを12月23日～25日の期間限定で発売する。

クリスマス ストロベリーショートケーキはもとより、タードプリンの上にいちごなどトッピングした「クリスマス キャンドルライト」やラズベリーソースが鮮やかなチョコレートプリンの上に艶やかなグラサージュを流し、カシストリュフチョコレートをトッピングした「スマス きらめく聖夜」、やさしい甘みのいちごプリンの上に、ふわふわスポンジケーキを重ねた「クリスマス ストロベリーナイト」、人気のカスタードプリンの上にチョコレートスポンジケーキ、たっぷりのマロンクリームを重ねた「クリスマス スノーモンブラン」などを用意している。

## 「絆」のXmasイベント

富士急行

富士急ハイランドで22～25日



富士急ハイランド「願いが叶う幸せのクリスマスロード」

富士急行(9019)は富士急ハイランドで「絆」をテーマとしたクリスマスイベント

企業レター

トを12月22日～25日の期間限定で開催する。メインイベントランクスである第一入園口付近には、高さ20mの巨大ツリーに向かって40本のホワイトツリーが立ち並び「クリスマスロード」が登場。夜になるとイルミネーションが光り輝き、幻想的な世界へと誘う。また、園内セントラルパークにて天然木を使用したクリスマスフォトスポットの設置や、人気絶叫アトラクション「高飛車」のLEDによるライトアップも実施。23日と24日には岡崎朋美氏によるスケート教室なども予定している。

## 潮流

## 「掉尾の一振」に期待

## 投機的円買い長くは続かない

market/bAnk



値を付けた1989年12月(3万8915円)以降の33年間(1990~2022年)で集計すると、12月の勝率は64%(21勝12敗)となり、10月末から上昇相場を描きやすいというアノマリー「ハロウィーン効果」が意識されやすい11月(67%)に次いで2位となる。

また12月は年末にかけて株価が上昇する「掉尾の一振」も意識される。年末の節税売りが一巡するクリスマス前後から買い戻しが入ることが背景とされる。ただ、年末高とはならない例もみられる。象徴的なのは2022年のパターンだ。米欧での金融引き締めによる景気後退懸念から、クリスマス休暇前に持ち高を調整する動きが加速し、22年12月の下落幅は1874円(6.7%)と大きかった。

足元の日経平均は33年ぶりの高値圏で、今年も目先の利益を確定する動きが広がるかどうか、鍵を握るのは外国人投資家動向だ。外国人投資家は11月第1週~第3週(10月30日~11月17日)の3週間で先物(日経平均先物、TOPIX先物、ミニ日経平均先物、ミニTOPIX先物の合計)と現物株との合算で2兆2781億円と大幅に買い越した。



例年12月は株式相場が強含む傾向がある。日経平均の月間騰落率を史上最高

円から3万3599円まで3061円(+10%)も上昇した。ただ、11月20日に3万3853円の高値を付けた後は上値が重くなっている。これは外国人投資家が11月第4週(20日~24日)に先物を4

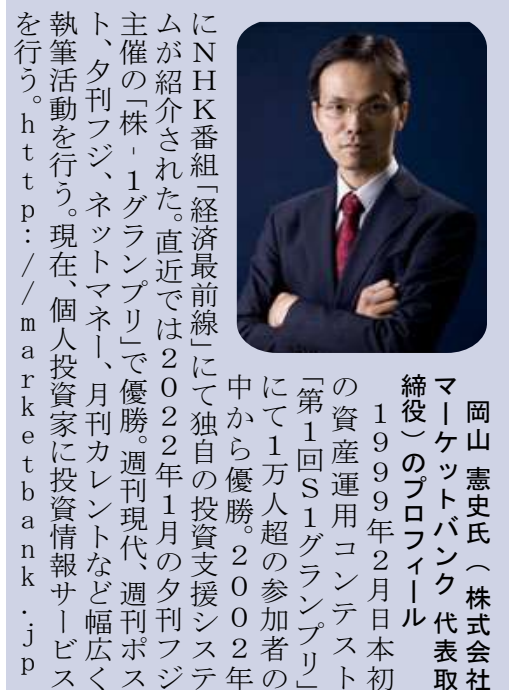
238億円売り越したからだ。

外国人投機筋は円高になると先物を売る傾向がある。11月13日に1ドル=151円90銭まで進んだ円安が11月29日には146円60銭台まで円高が進んだ。米連邦準備理事会(FRB)が利下げに踏み切るとの思惑を背景に米金利が低下したからだ。

米国市場は金利の低下とドル安でハイテク株中心に上昇が続いている。今進んでいる円高は比較的長いスタンスで積み上がった円売りの持ち高整理だろう。投機的な円買いも長くは続かない。米国の利下げが決まった訳でもない。11月29日の国内10年国債の利回りは0.675%と9月上旬以来、2カ月半ぶりの低水準を付けた。

円安基調になれば投機筋は先物に買いを入れる。株高基調は今後も続くだろう。

潮流銘柄はフェローテックホールディングス(6890)、ジャパンマテリアル(6055)、TOWA(6315)。



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

鍵握るのは外国人投資家



敏腕先物ディーラー

# ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

約194円安と反落、5週ぶりの週足陰線となった。米国の長期金利の下落を受けての上昇相場だったが、さすがに4週連続で上昇すると長期金利の下落を受けても反応が鈍くなってきた。

# SQ週で仕掛け 的買いあるか？

## 当面は高値もみ合い

先週の日経平均は前週末比約194円安と反落、5週ぶりの週足陰線となった。米国の長期金利の下落を受けての上昇相場だったが、さすがに4週連続で上昇すると長期金利の下落を受けても反応が鈍くなってきた。

3万4000円台に乗せてくるには更なる支援材料が必要となってくる。証券取引所が先週末発表した空売り比率は37.9%となっている。半年間では空売り比率が37%台以下になると下落する傾向にある。逆に比率が50%に近づくと相場が底入れする傾向にある。

37%台になるということは短期筋のショートカバーが終了したということであろう。上昇相場に勢いを付けるには空売りの買い戻しは必須である。現状ではその買戻しでの上昇は期待できない。一方、今週はメジャーSQ週でもある。先月、先々月とSQ週にはよく動いた。最近ではコールオプションの売りを締め上げで先物のヘッジ買いを誘発する手口が見受けられ、今回もその可能性はある。アウト・オブ・マネーの出来高が増加してきたら注意が必要である。



ドル円の日足チャート



NYダウの日足チャート

移動平均線(3日)の5日平均(3万3419円)を挟んでの相場が続いている。円安は買いで

が入ってくるが、3万3500円に乗ってくるかと売られる展開である。一目均衡表の転換線(3万3507円)が上値を抑えている状態だ。SQに絡めて上を仕掛けてこないとなると、窓埋め(3万2913円31銭)の展開になることもあろう。先週は146円台までの円高でも株は買われていたが、NYダウが4カ月ぶりの高値をとっても日本株の反応は薄かった。当面は高値もみ合いの日柄調整が続くと思われる「突っ込み買いの吹き値」売りが良さそう。今週のレンジは3万2900円〜3万3900円を想定する。(ハチロク)



日経225先物日足チャート

ニューヨーク市場に  
 いては11月30日に  
 ウィンブルストの  
 大幅な上昇により  
 0ドル47セント高  
 万341.5ドルと  
 8月上旬以来、約4  
 ぶりの高値を更新し  
 の、ナスダック指  
 の、ナスダック指  
 1万4200ポイント  
 でのみ平均は100  
 り、日経平均は1万  
 ク、日経平均は1万  
 いるようだ。米国の  
 動向についてはウオラ

# 先物経由の動きに注意

## 週末は225先物メジャーSQ

日経平均は11月20日に1990年3月以来、3年8カ月ぶりの高値となる3万3853円46銭を付ける場面があったが、その後は3万3500円を超えたと戻り売りに押される膠着感の強い展開になった。

このような中で今月は12月12日〜13日のFOMCに心が集まる。今週はFOMC前のブラックアウト期間に入ることから高官の発言はないが、8日に予定されている11月雇用統計に関する11月雇用はFRBは金融政策に自信を示すことになり、FOMCは無難な通過期待が高まる。

国内では4日に日銀が「金融政策の多角的レビュー」に関するワークショップ開催

一方で、他の高官は金利の高止まりで様子を見るような発言をするなど意見が分かれている印象もある。

「金融政策の多角的レビュー」に関する第1回ワークショップを開催する。これは過去25年間に実施してきた金融政策手段の効果について分析するものだが、現状で景気が停滞気味で円安も落ち着きを見せていることから金融政策正常化論議は高まらないだろう。

今週末は225先物のメジャーSQであることから先月と同様、これに絡む先物経由での突飛的な動きがあるかも知れない。個別ではレザーテック(6920)が年初来高値を更新し、やはりハイテクが強い。三越伊勢丹(3099)など内需が底打ちすれば物色の流れが変わるのだが…。

# 相場見通し

記者の視点

## 当面のスケジュール

- ・ 4日 11月マネタリーベース  
日銀「金融政策の多角的レビュー」に関するワークショップ開催
- ・ 5日 11月東京都区部消費者物価  
米10月JOLTS求人件数  
米11月ISM非製造業景況指数
- ・ 6日 米11月ADP雇用統計  
米10月貿易収支
- ・ 7日 10月景気動向指数  
中国11月貿易収支
- ・ 8日 10月家計調査  
7-9月期GDP改定値  
11月景気ウォッチャー調査  
米11月雇用統計
- ・ 9日 中国11月消費者物価、中国11月生産者物価
- ・ 11日 11月マネーストック  
10-12月期法人企業景気予測調査
- ・ 12日 11月国内企業物価指数  
FOMC(~13日)  
米11月消費者物価
- ・ 13日 12月調査日銀短観  
パウエルFRB議長会見(経済見通し発表)
- ・ 14日 10月機械受注  
ECB定例理事会(ラガルド`総裁会見)  
米11月小売売上高
- ・ 15日 中国MLF(中期貸出制度)金利  
中国11月工業生産、中国11月小売売上高、中国11月都市部固定資産投資  
米11月鉱工業生産・設備稼働率

## 編集後記

大阪万博の予算が320億円近くにまで膨らんでいる。会場整備費が資材高騰などで2回増額され、政府出展のパビリオン事業費や途上国の出展支援、安全確保の費用などが別途計上されたことで誘致決定時の予算から2.5倍以上に。東京五輪がそうだったように、開催への賛同を得るために、まずは過小に見積もるのセオリーだからという。ただ、増えた費用になし崩しの税金をたぎ込むのはどうか。またもな見積もりをもとに開催の是非を議論すべきだし、見積もった側にも責任があると思う。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。